

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第46号

2006年2月1日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

## 1. 2006年日豪交流年記念事業および学会活動に関する中期計画案

### (1) 2006年日豪交流年記念事業

オーストラリア学会2006年度総会・全国研究大会を6月10日(土)、11日(日)の両日、慶應義塾大学三田キャンパスで開催するとともに、同大会を日豪交流年記念行事に参加する事業として実施することが、2005年度総会(同志社大学)において承認されております。さらに、豪日交流基金より同大会を含め、より一層の事業を計画してほしいという提案とともに、相当額[豪ドル建て]の予算枠の提示を受けました。これを受けて学会運営委員会を2回開催し検討の上、2005年12月の学会理事会において、以下の事業計画を策定いたしました。

- ①東京記念事業 : オーストラリア学会全国研究大会
- ②名古屋記念事業 : 2006年日豪交流年記念シンポジウム
- ③大阪記念事業 : 日豪交流年記念豪州理解講座あるいは記念学会秋季大会

この事業の基本目的は、現在、やや停滞気味の日豪関係研究をはじめ、日本におけるオーストラリア研究を強化し、若手研究者の養成を行うとともに、現役オーストラリア研究者に3事業への参加を促すことで研究者の相互交流を活発化し、わが国におけるオーストラリア研究の拡大発展を求めることにあります。

①東京記念事業では、連邦政府教育大臣および駐日オーストラリア大使の参加(予定)を得て、オーストラリア側の「日本のオーストラリア研究への期待」などについて理解を深めるとともに、日本側の期待を伝えたい。(概要は次頁2.参照)

②名古屋記念事業では、オーストラリアと関係の深い中部経済界との共同事業とし、秋に日豪経済関係の今後に関するシンポジウムを開催し、意見交換により互いの認識を深めたい。(概要は次頁3.参照)

③大阪記念事業では、今後学会活動の一つの核にしていきたい豪州理解講座を開講するか、あるいは、2006年日豪交流年記念学会秋季大会を開催することにしたい。

なお、②および③の事業に関しては詳細が決定され次第、学会会報および学会ホームページ等により会員の皆様にお知らせいたします。

以上3事業の実施により、日本におけるオーストラリア研究の、この30年間にわたる発展の成果を確認できるとともに、同時に、今後のさらなる発展のための土台が築かれるはずですが、研究活動の成果は一朝一夕に現れるものではありませんが、過去30年の発展と現状、そして未来への戦略を考える上で貴重な成果をもたらさずにはなりません。また、わが国のオーストラリア研究者自身に研究促進の必要性に対する自覚が高まり、報告の場が増えることで研究成果の産出を促すことができると考えております。さらに、名古屋事業において、日本の財界に対して、今後の日豪経済関係研究への援助の必要性を認識してもらうことができると考えます。

## (2) 学会活動に関する中期計画案

2006年日豪交流年以降の学会活動として以下の計画があります。

### ① 「豪州理解講座」の開講

この講座は大学生・社会人を対象としたもので、毎年あるいは隔年1回、会員の所属する大学を巡回して実施します。開講にあたっては、会員所属大学の指定寄付講座として設置してもらえよう学会から依頼し、講座担当を学会が責任をもって行います。講座は当面、総合講座として、毎回テーマを変えて講師を委嘱します。開催形式は、学部授業あるいは大学院授業の一部として位置づけ Semester 授業として行う場合、大学の主催する市民大学講座として実施する場合、泊りがけでセミナーをコンベンションホールなどで実施する場合などが想定されます。その場合に、オーストラリアからゲストスピーカーを招聘することも十分考えられます。Teach Australiaの精神を学会なりに継続的に発展させたいと考えているところから企画されたものです。

### ② 地域研究会の継続開催

地域研究会の意義と目的については、関根政美代表理事からの「地域研究会への呼びかけ」(会報第45号)で明らかにされております。関西地区においては追手門学院大学オーストラリア研究所を拠点にすでに活動が始まっており(3頁5.参照)、関東地区についても準備が進められているところです。今後、豪日交流基金の資金にて留学し研究した社会・人文科学系若手・中堅研究者には、地域研究会において研究報告をしてもらうとともに、全国研究大会における個別報告を義務付ける、ということを豪日交流基金と検討していきたいと考えています。

以上の①および②の他に、③学会誌とは別に、オーストラリア研究論文集の定期刊行、④東京に共同利用施設としてのオーストラリア研究センター(NPO)設置の準備、⑤豪日交流基金による文化交流事業への積極的支援等を新たな学会活動として計画しています。

## 2. オーストラリア学会 2006 年度総会・全国研究大会 (東京) 概要

開催日：平成18年6月10日(土)、11日(日)

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス (〒108-8345 港区三田 2-15-45)

電話：03-3453-4511 (代)

担当：関根政美 (慶應義塾大学) オーストラリア学会代表理事

### □6月10日(土) 第1日目

日豪交流記念大会基調講演 (英語/逐次通訳)

Brendan Nelson (オーストラリア連邦政府教育大臣) (予定)

シンポジウム I 「東アジア共同体と日豪関係の未来 (仮題)」 (英語/逐次通訳)

基調講演 Alistair Murray McLean (駐日オーストラリア大使) (予定)

オーストラリア大使館レセプション

### □6月11日(日) 第2日目

一般個別研究報告

シンポジウム II 「日豪の歴史認識と日豪関係 (仮題)」

パネリスト 鎌田真弓 (名古屋商科大学)

加藤めぐみ (明星大学)

飯笹佐代子 (総合研究開発機構 (NIRA) 主任研究員) 他

## 3. オーストラリア学会日豪交流年記念名古屋事業概要

開催日：平成18年9月30日(土)

場 所：名古屋商科大学伏見キャンパス (〒460-0003 名古屋市中区錦 1-20-1)

電話：052-203-8111 (代)

担当：鎌田真弓 (名古屋商科大学)

#### 4. 第6期第3回理事会報告 (2005年12月11日、慶應義塾大学日吉キャンパス 午後2時から開催)

- (1) 学会報発行状況 (第43号、第44号、第45号)、および発行予定案 (第46号、第47号、第48号)
- (2) 学会誌『オーストラリア研究』第18号 (2006年3月発行予定) 編集進捗状況
- (3) 地域研究会の報告 (下記5.参照)
- (4) 第6期第2回運営委員会 (2005年8月29日名古屋商科大学)  
／第6期第3回運営委員会 (2005年11月4日慶應義塾大学) 報告 (1～2頁1.参照)
- (5) 2006年日豪友好条約締結30周年行事の学会企画 (1～2頁1.参照)
- (6) 全国研究大会準備状況 (前頁2.参照)
- (7) 豪日交流基金、Teach Australia関連事項の報告 (1～2頁1.および4頁参照)
- (8) 学会ホームページについて、前号の会報でお知らせした国立情報学研究所(NII)の学協会情報発信サービスからのリンクは引き続き申請中。
- (9) 新規入会6名を承認する。

出席者＝関根政美 (代表理事)、安藤充、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、小林信一、鈴木雄雅、橋本雄太郎、田澤佳昭 (以上理事)、岡崎一浩、谷内達 (以上監事)

#### 5. 第1回地域研究会 (関西) 活動報告

報告：南出眞助

第1回研究会が2005年11月26日(土)、大阪府茨木市の追手門学院大学において行われました。発表はつぎのとおり。①許琳玲 (名古屋大学大学院生)「1.2世、1.5世、1.8世と2世の若者たち—チャイニーズとオーストラリア人のはざまで」(コメンテータ：増田あゆみ／司会：鎌田真弓)、②津田博司 (大阪大学大学院生)「オーストラリア史はどこに向かうか?—「知」のグローバル化と歴史学」(司会：藤川隆男)、③佐藤渉 (立命館大)「Jack Davisの*The Dreamers*—歴史と記憶」(司会：有満保江)。参加者24名。豪日交流基金のレオニー・ボクステル氏から、研究助成金についてアナウンスがありました。各発表とも多方面にわたって熱心な討議が続き、時間が足りませんでした。閉会後の懇親会でも積極的な情報交換が行われました。

#### 【第2回 地域研究会 (関西) のお知らせ】

日 時： 2006年3月18日(土) 14:00～17:10 \* 非会員の方も参加できます。

場 所： 茨木市西安威 2-1-15 追手門学院大学 オーストラリア研究所  
Tel: 072-641-9667 / Fax: 072-643-9476 E-mail: cas@jimu.otemon.ac.jp  
会場はホームページでご確認ください。http://www.otemon.ac.jp/cas/

発 表： 「メルボルン都心部の構造変容—GISによる社会経済データの分析」  
堤 純 (愛媛大学)  
「オーストラリアにおける水利改革と環境資源保全」 加賀爪優 (京都大学)

交 通： JR 茨木駅西口南へ7分 マイカル茨木横、阪急茨木市駅西口前から追手門学院スクールバス (無料) 13:30 発。ほかに阪急バスもあります。

要 旨：

堤 純 (愛媛大学)「メルボルン都心部の構造変容—GISによる社会経済データの分析」

本報告はメルボルン都心部を対象として、GISを用いて高層建築物の立地パターンを分析する。とくに、1990年以降の動向をみると、住居系の高層ビルの増加が著しい (約10倍)。小統計区のセンサスデータをもとに人口学的な特徴をみると、メルボルンの都心部ではとくに1996～2001年のセンサス間で大学生の急増が確認できる。本報告では学生の急増と都心部の商業・住宅開発の関連などの視点から都心部の構造変容を考察する。

加賀爪優 (京都大学)「オーストラリアにおける水利改革と環境資源保全」

オーストラリアの歴史的発展過程は、水資源の利用可能性に大きく規定されてきた。しかし、近年の急激な水資源開発は、河川からの過剰な取水を引き起こし、最大の灌漑用水源であるマレー河口に流水が届かないという断流現象を生じ、集水域において深刻な環境破壊をもたらしている。こうした問題に対して、1995年6月に取水抑制政策が導入された。本報告では、この政策転換に伴う水利改革がもたらす環境経済的効果について論じる。

## 6. 『オーストラリア研究』第19号投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』第19号(2007年3月発行予定)に掲載する論文を募集します。論文の締め切りは**2006年8月末日**。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは**2006年10月30日(期日厳守)**。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだFD)をご利用ください。記入例は第15号(2003.3)を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

投稿・連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学言語文化教育研究センター 有満保江気付

TEL: 0774-65-7070 Fax: 0774-65-7069 E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp

### 2005年5月より宛先が変わりましたので、ご注意ください

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

### 学会費未納分の納入について

本年度までの会費を未納の会員の方々には、未納分の振込用紙を同封いたしましたので、至急お振込みください。年会費は5,000円(賛助会員は10,000円)です。

お問い合わせ：会計担当理事(安藤 充 andom@dpc.aichi-gakuin.ac.jp)

### 豪日交流基金からのお知らせ

#### 1. 豪日交流基金サー・ニール・カリー助成プログラム 募集開始

2006年度「大学院生への助成金」「オーストラリア講座・講義 新設・充実への助成金」「オーストラリア関連書籍への助成金」の3つの助成プログラムの募集を開始しました。

締切りは**4月28日(金)**。詳細は <http://www.ajf.australia.or.jp/awards/sirneil/>

#### 2. CD-ROM教材「エコ・オーストラリア発見」無料配布開始

昨年12月にオーストラリアの大自然、環境保全への取り組みを紹介する日本語CD-ROM教材「エコ・オーストラリア発見」(英語の音声選択可)の無料配布を開始しました。環境、社会、英語、オーストラリア学習等に最適な教材です。基金のWebページにて申し込み受付中。

申し込み受付は <http://discover.australia.or.jp/eco/materials/request.html>

#### 3. 豪日交流基金内の人事異動

事務局長 Lucy King 事務局次長 堀田満代(ほりた みちよ)

前事務局長 Leonie Boxtel は4年半の滞在を終え12月31日に帰国。また前事務局次長、北村育子は1980年の豪日交流基金日本事務局の創立から日豪の発展に貢献してきましたが、12月7日で退職いたしました。皆様からのあたたかいご支援に感謝いたします。そして新任二人を今後ともどうぞよろしく願いいたします。学会関係は引き続き久松晶子が担当です。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付

オーストラリア学会事務局 TEL: 0426-91-0011(代) / Fax: 0426-91-5899

E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

### 2005年4月より事務局が移転しましたので、ご注意ください

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。(宛先: 鈴木 HAF00025@nifty.ne.jp

／田澤 ytazawa@dohto.ac.jp)

[編集担当：田澤佳昭(道都大学)]